1月25日発行の「つながろうCO・OPアクション情報」38号
（http://shinsai.jccu.coop/）に掲載のメッセージ全文です。

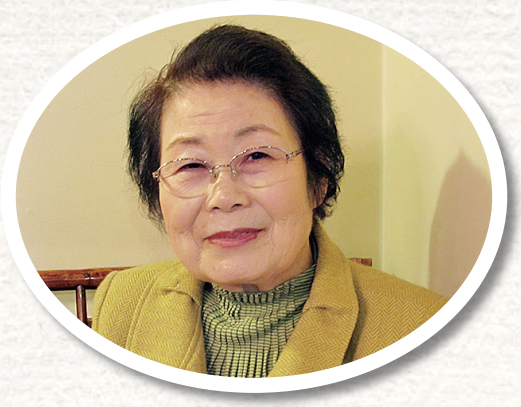
メッセージ

被災地からのメッセージ

全国の皆さまへ

福島県南生協
理事　近内正子（こんない まさこ）さん

福島県南生協の理事・近内正子さんに被災地の生協としてできることや、全国の生協に伝えたいことなどをお聞きしました。



インタビューにご協力いただいた福島県南生協の近内 正子理事。

●震災当時も営業を続けました

―福島県南生協（渡邊郁子理事長、本部・西白河郡、以下、県南生協）は、戦後すぐに設立された「白河地区生協」を前身とし、1985年に「福島県南生活協同組合」と改称された歴史ある生協です。約1万5,000人の組合員さんと共に活動していますね。東日本大震災発生当時はどのような状況でしたか？

震災の時は白河市内も大きく揺れ、土砂崩れで亡くなる方もいらっしゃいました。でも、沿岸部のような壊滅的な被害ではありませんでした。

生協のお店も、店長の判断で営業を続けました。停電でレジが使えなかったので電卓で計算し、個数制限もさせていただきましたが、組合員さんからは「生協が開いていて助かった」というお言葉をたくさんいただきました。

●被災地の生協としてできること

―白河市内は2011年7月に140戸の仮設住宅が完成、主に双葉町の方が入居されています。県南生協では、仮設住宅での傾聴ボランティアなどの活動もなさっていますね。

はい。小さな生協で人員も予算も限られているのですが、できることを心がけています。

仮設住宅では、お話を伺うボランティア活動を続けています。仮設住宅は、農作業などをするような場所がなく、今は何もすることがないお年寄りがたくさんお住まいです。「何をすればいいんだろう」「これからどうすればいいんだろう」というお話をお聞きするばかりです。私たちはどう力になれるのか、答えはまだ出ていません。

また、毎月11日には生協の供給高の1%を、仮設住宅の皆さんとのリフレッシュツアーなどに使用しています。市内の「きつねうち温泉」にご一緒した時には、「仮設住宅のお風呂は狭いから、温泉で久しぶりに脚を伸ばせて気持ちがよかった」などの声をお聞きすることができました。

他にも、福島県生協連が実施している「福島の子ども保養プロジェクト」（コヨット！）などのプロジェクトとも積極的に連携しています。週末や夏休み、冬休みなどに放射線が低線量の地域で過ごす活動です。のびのびと親子でくつろぐことは、精神的にもいい効果があるといわれています。ボランティアとして、生協共立社

1月25日発行の「つながろうCO・OPアクション情報」38号
（http://shinsai.jccu.coop/）に掲載のメッセージ全文です。

（本部：山形県）の方など、他県からのご協力もいただいております。

●食事調査やWBCの活用を

―福島県内の生協では、放射線の測定を推進されています。

放射線は目に見えませんから、「不安ならとにかく測る」ということにつきます。11年度からコープふくしまが推進する食事調査やホールボディーカウンター（WBC）※、空間線量計の貸し出しなどで対応しています。食事調査は、コープふくしまの調査対象100家庭のうち、県南生協に毎回5家庭分割り当てがあり、測定を続けています。

また行政も、「ふくしまの恵み安全対策協議会」（12年5月に福島県や生産者団体、流通事業者、小売事業者、消費者団体で設立）でも綿密な放射性物質検査を実施しており、結果や生産履歴情報などを提供する事業をスタートさせています。

正規の検査を受けた福島の県産品は安全ですから、ぜひ皆さんに食べていただきたいです。震災の被害は今後も伝えたいのですが、風評被害は解消しなくてはなりませんので、これも課題です。

福島県南生協では、仮設住宅の住民向けのリフレッシュツアーを実施。

●元の「美しい福島」に戻してほしい

―県南生協では、放射能に関する勉強会も開催されています。

はい。13年は、チェルノブイリを視察された医師の坪井正夫先生や福島大学の小山 良太准教授の講演会などを郡山医療生協との共催で行ないました。免疫力を高める食事や生活、放射能測定の重要性など実生活に役立つこともたくさんお話しいただいております。

勉強会の内容については、機関紙『りゅうきんか』などでも紹介し、生協全体での情報の共有をはかっています。

機関紙のタイトルはキンポウゲ科の花の名前からつけました。「立金花」または「流金花」と書き、春から夏にかけて湿地でかわいい黄色い花をたくさん咲かせます。福島は、りゅうきんかの他にもたくさんの花が咲き、海も山もある美しい町です。住みやすく、人もやさしいところです。

でも、原発事故によって、この美しい福島は壊されてしまいました。

地震や津波などの災害は、防ぐことができません。でも、原発事故は人災です。防ぐことはできたはずです。なぜもっと反対できなかったのか……悔やむことばかりで、今でも涙が出ます。

仮設住宅のくらしは不便ですが、時間はかかっても家はいずれ建ちます。でも、放射線はいつ消えるのか、まったく先が見えません。元の福島に戻してほしい。いつもそう願っています。

ただ、震災と原発の事故がなければ、生協の真のすばらしさに気付くことはなかったことも事実です。何もなければ、ただ理事としての仕事をしていただけだったかもしれません。このことには感謝しています。

そして、全国の生協の皆さんからあたたかいご支援をいただいていることにも感謝しています。私たち県南生協では、今後も勉強会やボランティアなど、できることを続けていきたいと思っています。

※ 放射性物質の種類によって放射線の波長が違うことを利用し、体内の放射性物質の濃度を測定し、それを基に内部被ばく線量を推定する機器。

（取材日2013年11月20日）